

## 飯富の魅力を体験してほしい

岩根地区在住 小坏厚さん（七十代）

### ○飯富について

ここの良さっていうのは、世代間で土地に対する価値観違ってくるような気がする。ここは農業地帯であって、水害が起ることによって土地が肥える。三十年くらいまではそういう部分であつたんですよ。今ここに住んで八十代後半くらいの人は水害で当たり前であつて、別に特別なことじゃないよ。水害が来るけれどもその分だけ土地が肥えてるから、生産力についての魅力があつたから離れられないっていうのは、今の八十代後半以上の人だと思います。

うちはここで四代くらい、もつと前からかな、住んでる。親父の代から兼業農家。うちの親父は公務員。母親は教員だったから。

土地に対する愛着っていうのは、農家の人はちよつと違ったイメージがあるのかな。実際は同じなんだけど、今は農業離れ。飯富ごぼうとか飯富ニンジンとか白菜とか、いろんなお金になつた部分があつて、一番いい時はごぼうとか山芋が主産地で、昭和四十年代、買い取つて東京に持つていくような仲買いやつていた人が何人もいるんだけど、その時に生産物を早

めに買わなきゃいけないってことで、その当方で百万くらいの金が動いた。当時で百万をキヤッシュで持つてくるんだつて。生産性が高かつたわけです。

（作物ができたときには）ごぼうとか長芋を掘る人がいるわけです。副業的にそういう仕事有成り立つてたんです。（掘り起こす用の）農具があつて、それで掘り起こして一本一本抜いてついでいう形です。自分たちの手で東京の市場まで運ぶために、この辺で運送業を起業した人がいます。

農業っていうのはやっぱりパワーがあるというの、生産力を考えるとそういうことなのかな。

### ○飯富の農業の現在

農作物が、美味しいんだけど見てくれが悪い。出荷の方法も昔は土がついたまま出してきたのから、きれいに洗浄して出すようになって、やっぱり見た目が悪いと市場で売れなくなる。美味しさよりも見栄えで購入の側の人がみていくような形。購買層の意識の変化だろうね。あとは長くお金になる（作物を）集中的に作つていくわけでしょ。そうすると土地がやせてくるとかあるじゃないですか。連作による障害も出てくる。

（他地域と）交流することによって土地が変

わる。農業が変わつてく。土地土地の良さっていうのが、思いが出てくるよね。

（今は）JAからの委託の農業が多くなつてるし、直売所に卸すのがすごく多い。庭先で自分たちで売るんじゃないくてJAに対して委託する部分と、自分で直売所に卸す人がいるんです。（直売所を）長く以前からやつていた人というのは、お金儲けがうまいっていうか。パワーがある人はそうしてる。農家がどうやって自立してかかっていうことを考えれば、おかれてる場所、地域が潤つていくか。どうやって変わっていくか、っていうこと。昔からこうだから、っていうのは、土地が生きられない。

今はこの辺でも作ってるものがほとんど野菜。ごぼうとかはほとんど作つてない。ここの生産品はほとんどがブランドのやわらかねぎ。あとは路地のながねぎ。あとは葉物野菜で青梗菜とかほうれん草とか。

### ○台風十九号被害をどうとらえている

八十代後半の人にとっては水害はあつて当たり前前。ただ、今住宅の形が変わつたんですね。前は今みたいに断熱材とかを使つてない。畳を上げれば（水が）すつと流れるような高床式みたいなかたちで、言い方は悪いけど、掘つて立て小屋みたいな作りが多かつたじゃないですか。そうすると復旧も非常に早い。水が来た

よ、っていったらポンと上げて、畳を上げて、家具を上げて、それで川の水が引いたときに下の泥を全部掃きだせばある程度また元に戻るっていうパターンがあつたじゃないですか。今は建物はみんな断熱材が入ったりして住宅のあり方も変わってる部分があるんじゃないかな。

### ○飯富・川の魅力をたくさんの人に知ってもらうには

先住の人間がここの魅力を伝えてこなかったってことだね。

体験しに来てもらいたいと思う。機会があったら、船に乗せてもらってさ、実際にやってみたら、あ、魚釣りってこんなに楽しいんだね、ってやっぱり実体験がないと。そういう機会を地元でどうやって作っていくか。実体験としてわかれば、やっぱりいいよね、残さなきゃいけないよね、ってなる。川と遊んでほしいな。聞くだけじゃなくて実際にやってみよう。遊びの楽しさ、そこで遊んでみて体験してみてさ、何が良かったのかっていうのを実感として伝えてほしいんだ。